

仕事と育児を両立する母親のエンパワメントに関する研究（その1）

— 仕事と育児を両立させた母親のエンパワメント獲得のプロセス —

広島文化学園大学看護学部

中井美美子, 佐々木秀美, 山内 京子

論文要旨 本研究は、仕事と育児を両立する母親が、その両立の上で必要となる能力や開発されていく能力及びエンパワメントの獲得のプロセスを明らかにすることを目的とし、仕事と育児を両立してきた母親を対象にインタビューを行ったものである。仕事と育児を両立してきた母親（現在子どもが成人している）5名にインタビューを行い、インタビュー内容を質的に分析し5名のカテゴリー化をまとめた結果、【女性が働くようにシステム化されていなかった時代背景】、【自分のキャリア（能力）に見合った職業選択の意思決定】、【職業継続に伴う家族に及ぼす影響とその関係調整】、【仕事と家事・育児をしていくための家族・地域の協力】、【子育て中の母親に対する職場の理解とサポート】、【仕事と家事の両立困難と心身の負担】、【自己の存在価値の目覚め】の7つのカテゴリーが得られた。この7つのカテゴリーから仕事と育児を両立する母親のエンパワメントの獲得プロセスについて検討した結果、母親たちが、仕事と育児を両立するという目標に向かって、日々周囲の人々と関係形成しながら切磋琢磨し問題に対処していく中でエンパワメントを獲得していることが明らかとなった。

キーワード：仕事, 育児, 母親, エンパワメント

■ はじめに

1. 研究の背景

近年、女性・男性の結婚観やライフスタイルの多様化が進み、女性達は、結婚・出産後も自己実現していくことを望むようになった。しかし、男性の育児休業や育児参加について取りあげられてはいるものの、男性個々の価値観の問題や職場の持つ文化的価値などから考えるとまだまだ厳しいのが現状である。それは、仕事と育児を両立したいと願う母親たちを苦慮させてきたのは女性に与えられた伝統的な社会規範であり、施策の不備があったからである。しかしながら、現実には与えられた環境の中で、しっかり、子育てをしつつ働き続ける、あるいは働き続けなければならない母親は存在する。そうした母親達は、時には孤立感を感じつつも、日常生活に引き起こされる様々な問題を対処し、自身に内在する力を開発・発揮

してきたと考えられる。その自身に内在する力がエンパワメント（Empowerment）と呼ばれる概念である。

Empowermentの“Em”“内”という意味をもつ接頭語であり、powerはその持つ意味である“力”，mentは、Empowerという動詞を名詞にする接尾語である。すなわち“内”と“力”がこの言葉を理解する鍵であり、個人に内在する問題解決能力とも言い換えられる。ギブソン（Gibson, C.H）¹⁾によれば、「エンパワメントとは自らのニーズに適合した人々の能力とその能力が促進され、強められ、認識される社会のプロセス」²⁾である。つまり、問題を有する個人が自身で問題を解決し、自身の生活をコントロールしていくためのセルフケア機能であり、自身の健康に影響を与える要因をコントロールできる力であるとも考えられる。

人生における結婚・出産は喜ばしい出来事であ

なかい ふみこ

〒737-0004 広島県呉市阿賀南2-10-3 広島文化学園大学看護学部

り女性としての幸せであると言われ、今日でも女性の幸せは結婚して子どもを産むことであるという価値観が根強くある。しかし、現代は価値観の多様化によって女性だから結婚・出産をするということを決めつけることができなくなっている。しかし、女性の価値観の変容と社会体制や社会全体の価値観との差が大きく後についていけないのが現状で、女性は結婚して家庭を守り、子育てをするという価値観は未だに色濃く残っている。

女性の育児休業の取得率から見ても、子どもができてずっと職業を続けたいと考えていることが示唆される。又、外で働きたい女性達が、万が一子どもができた場合に仕事上不利になると考えられた場合、子どもを産むことを選択しない可能性も考えられる。それは、少子化に直接的・間接的に影響を与える問題であり、わが国が少子化対策と母子保健などの施策として打ち出している論点でもある³⁾。

平成20年(2008年)の厚生労働省による働く女性の実情⁴⁾報告によれば、大卒女性の継続就業を促進するためには、さまざまな職場において職業と家庭の両立のための環境整備が必要であることなどが報告されている。昨今の不景気と少子化で経済力が弱まる日本において女性の労働力は今後も重要視されていくものと考えられることから、女性が働き続けられる社会の理解と体制づくりが必要である。仕事と育児を両立していくための社会支援が十分にあることが何よりの願いであるが、これまで何度となく少子化対策として支援を考える必要があると叫ばれたにも関わらず、進まないこの現状は、まだまだ男性社会であることを感じさせてならない。そして、今の母親たちは、社会の支援を待っているだけではすまない状況にある。そこで、母親自身に引き起こされた問題を母親自身が自らの力、すなわち、エンパワーメントが必要であると考えられる。

2. 研究動機

行政の支援や金銭的支援、社会支援が不十分な時代にあった母親たちはどのようにして乗り越え、そしてどのような能力を身につけ仕事と育児を両立してきたのかは興味深い問題であるが、仕事と育児を両立する母親にとって十分な環境が整っていない時代背景は、働き続ける女性、働き続けたい女性を苦慮させてきた。“三つ子の魂百まで”の諺が示すとおり、職業の継続が子どもの

成長・発達に与える影響などの考えも、本人のみならず社会や周囲の価値観との対立も余儀なくされる問題である。女性が働くことへの理解や支援、体制づくりができていない現在においても、苦慮しながら仕事と育児を両立するのは、生活のためであり自分のキャリアと、専門職者として仕事をしていることへのプライドである。今は理解されなくとも、全ては家族のためそして職場の理解者と協力者のために頑張ることができるのである。母親が子どもを守る強さは、育児に伴う問題の対処経験で強くなり、その強さは母親自身を成熟させ、さらに強くなり行動へのエネルギーを増していくのである。中でも現代の働く母親たちの目標となる存在は、現在すでに子育てを終えて働く女性たちの存在である。

■ 研究目的及び研究の意義

1. 研究目的

本研究では、母親が仕事と育児を両立してきたプロセスと、そのプロセスにおいて遭遇するさまざまな困難とその困難に対処する中でどのような能力が発揮され、どのような能力が開発されてきたのかについて明らかにし、仕事と育児を両立させた母親のエンパワーメント獲得のプロセスについて検討することを目的とする。

2. 研究の意義

母親が仕事と育児の両立において遭遇する困難に対処するための能力について明らかにし、母親自身のエンパワーメント獲得のプロセスを検討することは、同じように仕事と育児を両立している母親たちの示唆になりえる。なお、本研究は修士論文を加筆・修正したものである。

■ 研究の概念的枠組と用語の定義

1. 研究の概念的枠組み

個人のエンパワーメント基本モデルは、被験者から得られた内容を分析した結果を考察するとき用い、仕事と育児を両立する母親のエンパワーメントモデル作成の際の基盤として用いるものとする。本研究では、八尾らのエンパワーメントモデル⁵⁾を基本とした。エンパワーメントモデル(図1)の上支えは「指針」であり、下支え(土台)は「主体性」から成る。その中身がビジョン、目

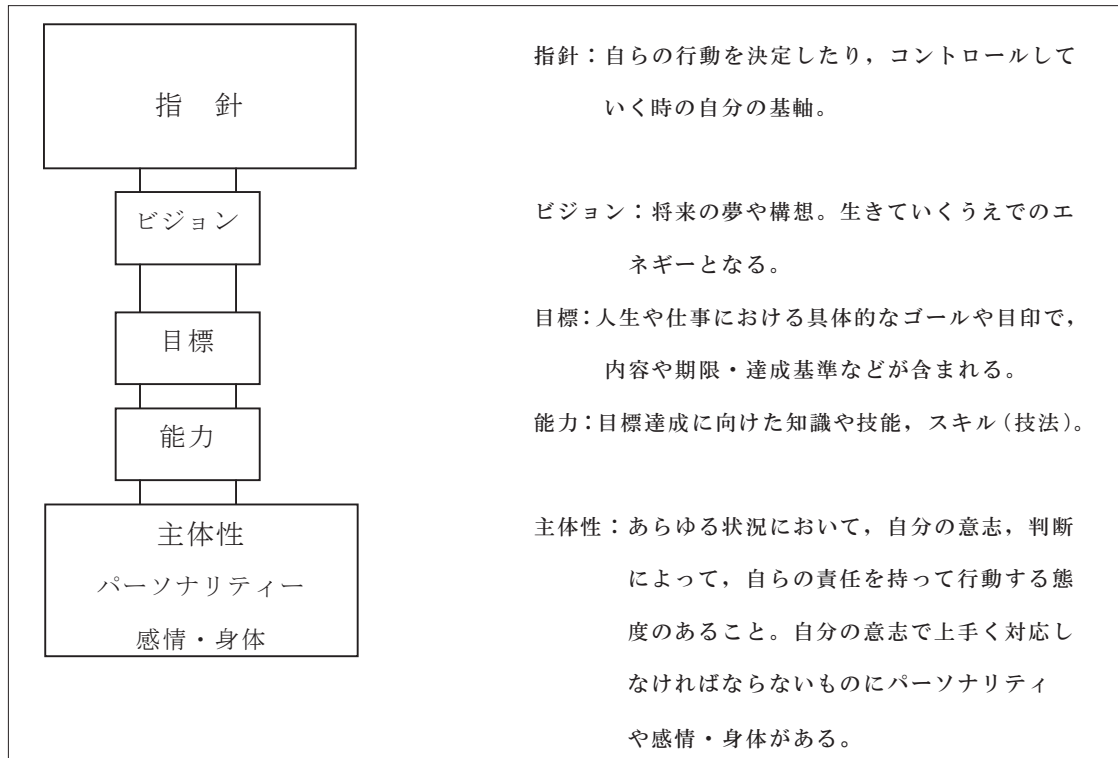


図1 個人のエンパワメント基本モデル

標，能力である。

上支えとなる指針とは，自らの行動を決定し，コントロールしていく時の自分の基軸である。下支えとなる主体性とは，あらゆる状況において，自分の意志，判断によって，自らの責任をもって行動する態度のあることである。自分の意志で上手く対応しなければならないものにパーソナリティや感情・身体がある。

中身となるビジョンは，将来の夢や構想であり，生きていくうえでのエネルギーとなる。同じく中身である目標は，人生や仕事における具体的なゴールや目印で，内容や期限・達成基準などが含まれるものである。能力とは，目標達成に向けた知識や技能，スキル（技法）のことである。

2. 用語の定義

本研究における用語の定義は以下のとおりとする。

仕事：一般的に仕事とは，する事。しなくてはならない事。特に職業・業務を指すことである。ここでは，看護に関連した職業に正職員として従事していることとする。

育児：一般に育児とは，乳幼児を育てることである。ここでは，就学前の子どもを育てる

ことであり，育児に関連する家事も含む。

母親：看護に関連した職業に正職員として従事し，仕事と育児を両立し続けてきた女性。

■ 研究方法及び研究デザイン

1. 研究方法

本研究は，母親個人のエンパワメントに関する研究のため，個人の能力を迫及するものである。個人の能力は目にはみえない。能力は行動となって評価される。その行動には感情や個人の価値観が伴うことから個人に内在する目にはみえないものへ焦点をあてる必要がある。この価値観や感情といった目にはみえないものの中にこそ，事象における本質や特殊性があらわれるものであると考え。そこで，本研究では比較的オープンに組み立てられた半構成的インタビューを用い，個人に内在する価値観や感情を少しでも引き出すといった質的研究の手法を使った。

2. 研究デザイン

1) 研究対象者

正職員として職業（看護に関連する仕事）を継続しながら育児をしてきた女性で，現時点で子ど

もが成人を迎えている40歳代後半～60歳代の方5名（A, B, C, D, E）。配偶者の有無，子どもの数は問わない。

2) データ収集法

半構成的インタビューを行い，内容をボイスレコーダーに録音または逐次記録した。録音をする際，対象者に承諾を得て行ない，インタビューを行う場所については，対象者と調整し決定した。

3) データ収集内容

半構成的インタビューを行い，以下の5項目についてインタビューを行った。

- (1) 結婚時に仕事と家庭の両立での苦労や問題。
- (2) その苦労や問題への対処。
- (3) 出産後に仕事と育児の両立での苦労や問題。
- (4) その苦労や問題への対処。
- (5) これまでの経験から，仕事と育児を両立する上で必要だと考える支援。

4) データ収集時の対象者への配慮

対象者への配慮として，インタビューの日は，対象者の都合の良い日時とし，1人あたりのインタビュー時間は30分以内とした。インタビューを行うときは，他者が訪室しない時間帯を選択し，場所や声の大きさに配慮して行った。

5) データ収集期間

平成22年6月～7月

6) データ分析の方法

5名（A, B, C, D, E）のインタビューの内容から以下の手順で分析を行った。

- (1) 重要文脈の抽出
- (2) 重要文脈抽出のコード化
- (3) サブカテゴリー化
- (4) カテゴリー化

7) 分析結果からのエンパワーメント獲得プロセスの作成

8) 倫理的配慮

- (1) 対象のプライバシーの保護；データは主に広島文化学園大学阿賀キャンパス内研究室で処理し，データは本研究以外では使用しないことを口頭と文書で説明した。データ処理の際も個人が特定できないようにした。
- (2) 研究結果の公表の仕方；研究成果は学会や大学内で公表することを口頭と文書で説明し同意を得た。
- (3) 対象の心身の負担への配慮；インタビューを行う日程及びインタビュー時間は，30分程度として負担にならないよう調整した。
- (4) 対象に理解を求め同意を得る方法；対象者には文書と口頭で説明し，インタビューを

もって同意とした。

- (5) 研究協力の撤回が自由にできること；一旦研究に同意した後でも，その意思がなくなった場合には，いつでも研究参加を取り消すことができることを文書と口頭で説明した。
- (6) 対象に生じる不利益や危険性；この研究に参加する場合，あるいは参加に同意しない場合でも何ら不利益をこうむることがないことを説明した。
- (7) 対象が受ける利益や看護上の貢献；本研究に協力していただくことで，働き続ける女性の支援や育児支援，同じ問題を抱える人々の支援につながる示唆を得られることを文書で説明した。

■ 研究結果

1. Aさんのインタビュー内容と分析

—Aさんのインタビュー内容からの重要文脈の抽出・サブカテゴリー化・カテゴリー化—

Aさんのインタビュー内容から重要であると考えられた文脈にアンダーを付し，コード化した結果，82個の重要文脈が抽出された。コード化された82個の重要文脈をさらに，サブカテゴリー化した結果，抽出されたサブカテゴリーは，18項目であった。サブカテゴリー化された18項目をさらにカテゴリー化した結果抽出されたカテゴリーは，【仕事と家事・育児を両立していくために人間関係を広め，地域と自分のネットワークを作る】【子どもがさみしい思いをしない】【仕事を休まないためにいつも頼める人を作っておくなどの早期対処】【経済面は自己の役割であるという強い意思】【仕事と育児の両立は自分の仕事に役立つ】【家事に対する負担感がない】の6項目であった。

2. Bさんのインタビュー内容と分析

—Bさんのインタビュー内容からの重要文脈の抽出・サブカテゴリー化・カテゴリー化—

Bさんのインタビュー内容から重要であると考えられた文脈にアンダーを付し，コード化した結果120個の重要文脈が抽出された。コード化された120個の重要文脈をサブカテゴリー化した結果，抽出されたサブカテゴリーは24項目であった。サブカテゴリー化された24項目をさらにカテゴリー化した結果抽出されたカテゴリーは，【家事は女性の役割という伝統的な社会規範を受け入れてい

た家庭生活のスタート】【子育てに専念した期間の家事と育児の身体的負担】【自分のキャリアを生かした仕事の継続】【仕事と家事の両立は心身の負担が大きい】【職場への迷惑を回避するための苦い思い出】【託児所があればよい】【職場に子どもと一緒に行く事ができたら救われた】【仕事で母親が不在である子どもの寂しさや思いへの共感】【子どもに不憫な思いをさせないための調整と努力】【子どもの自立を考えた育児法への転換】【仕事と家事・育児を両立していくための家族・地域の協力】【子育て支援は、個々が求めている支援が必要】の12項目であった。

3. Cさんのインタビュー内容と分析

—Cさんのインタビュー内容からの重要文脈の抽出・サブカテゴリー化・カテゴリー化—

Cさんのインタビュー内容から重要であると考えられた文脈にアンダーを付し、コード化した結果、234個の重要文脈が抽出された。コード化された234個の重要文脈をサブカテゴリー化した結果、抽出されたサブカテゴリーは43項目であった。サブカテゴリー化された43項目をさらにカテゴリー化した結果抽出されたカテゴリーは、【職業継続の選択による食管理の困難】【仕事をしながら家事・育児をしていく上での母親のサポートがあった】【仕事と家事・育児を両立していくための家族・地域の協力】【職場の理解とサポート】【女性が働くことへの理解と環境が整っていなかった】【社会支援や施策の不備】【保育園の整備や充実が必要】【子育てがすんだ者の役割は支える側になること】【子育て中であることや女性であることによって影響を及ぼしてしまう職場に対する気兼ね】【仕事をするによって家庭に及ぼす問題への危機感】【自分の能力に合った職場選択】【女性も柔軟に生きる必要性】【仕事と子育てのバランスが大切】【乳幼児期は重要な時期なのでしっかり関ることが大切】【子どもの発達に伴った、必要な体験】【子どもの心を育て、体感で学習する生きる力の涵養】の16項目であった。

4. Dさんのインタビュー内容と分析

—Dさんのインタビュー内容からの重要文脈の抽出・サブカテゴリー化・カテゴリー化—

Dさんのインタビュー内容から重要であると考えられた文脈にアンダーを付しコード化した結果、135個の重要文脈が抽出された。コード化さ

れた135個の重要文脈をさらに、サブカテゴリー化した結果、抽出されたサブカテゴリーは29項目であった。サブカテゴリー化された29項目をさらにカテゴリー化した結果抽出されたカテゴリーは、【仕事に対する考え方は、自己の目的によって個々に異なる】【仕事の熱意と経済の問題による職業の選択】【姑の母親役割代行と孫との愛着形成】【姑の育児参加による精神的安定】【姑・夫・妻の明確な役割分担と良好な人間関係形成】【親子が一定の距離を保った関係がよいという考え方】【家族成員がそれぞれ個別の存在であるという考え方】【母性が勝ってきた現在は、仕事や犬で子育ての代償をしている】の8項目であった。

5. Eさんのインタビュー内容と分析

—Eさんのインタビュー内容からの重要文脈の抽出・サブカテゴリー化・カテゴリー化—

Eさんのインタビュー内容から重要であると考えられた文脈にアンダーを付しコード化した結果197個の重要文脈が抽出された。コード化された197個の重要文脈をさらにサブカテゴリー化した結果、抽出されたサブカテゴリーは31項目であった。サブカテゴリー化された31項目をさらにカテゴリー化した結果抽出されたカテゴリーは、【仕事をしていない自己が専門職者としての自己を自覚めさせた】【性別役割分業による妻の苦悩】【約束を守れない妻への夫の憤怒と妻の苦悩】【仕事と家事・育児を両立していくための家族・地域の協力】【保育園の利用と延長保育の利用による経済的負担】【仕事と育児の両立の苦悩は精神的な部分である】【あらゆることを講じての仕事と育児の両立】【子育てをしながら仕事をするためには職場の理解が必要】【母親役割の獲得に伴うアイデンティティの確立】の9項目であった。

■ 考 察

考察においては、個々のカテゴリーを用いてエンパワメント獲得の構造図を作成した。図中の上方に掲げている empowerment は、カテゴリー化された事象及び感情の体験の中で少しずつ獲得されつつあるエンパワメントを示し、太い矢印の先にある empowerment は、獲得されたエンパワメントを示すものとする。

1. Aさんのエンパワメント獲得のプロセス

Aさんのカテゴリからのエンパワメント獲得プロセスの構造図を図2に示した。Aさんは、経済面は自己の役割であるという強い意志を持っている。この仕事への強い意志が、仕事を休まないためにいつも頼める人を作っておくなどの早期対処につながっていることが考えられる。仕事を休まないための早期対処のために、仕事と家事・育児を両立していくために人間関係を広め、地域と自分のネットワークを作っている。人間関係を広め、地域と自分のネットワークを作ることで、子どもがさみしい思いをしないことや家事に対する負担感がないといった結果を生み、結果的に仕事と育児の両立は自分の仕事に役立つというAさんの肯定的な感情につながっている。Aさんの場合、仕事と育児の両立は自分の仕事に役立つという肯定的な感情に向かう矢印は、仕事と家事・育児を両立していくために人間関係を広め、地域と自分のネットワークを作るが起点となっていることが特徴である。そして、Aさんは経済面は自己の役割であるという強い意思がパワーとなっており、職場への迷惑をかけないようにして働きやす

い環境と自己の生活の基盤を守るという目的のために人間関係を広め、地域と自分のネットワークを作るということをしている。Aさんのエンパワメントは、子どもがさみしい思いをしないことや仕事と育児の両立は自分の仕事に役立つ、家事に対する負担感がないといった肯定的な感情を生む結果となり、このことがさらにAさんのエンパワメントを増強させているものと考えられる。

2. Bさんのエンパワメント獲得のプロセス

Bさんのカテゴリからのエンパワメント獲得プロセスの構造図を図3に示した。

Bさんは、家事は女性の役割という伝統的な社会規範を受け入れて家庭生活をスタートしている。子育てに専念した期間の家事と育児の身体的負担は、家事は女性の役割であることを受け入れた家庭生活に関係したものであり、後に仕事を始めたときにも大きな影響を及ぼしている。自分のキャリアを生かした仕事の継続は、仕事で母親が不在である子どもの寂しさや思いへの共感につながり、子どもに不憫な思いをさせないための調整と努力につながっている。職場への迷惑を回避す

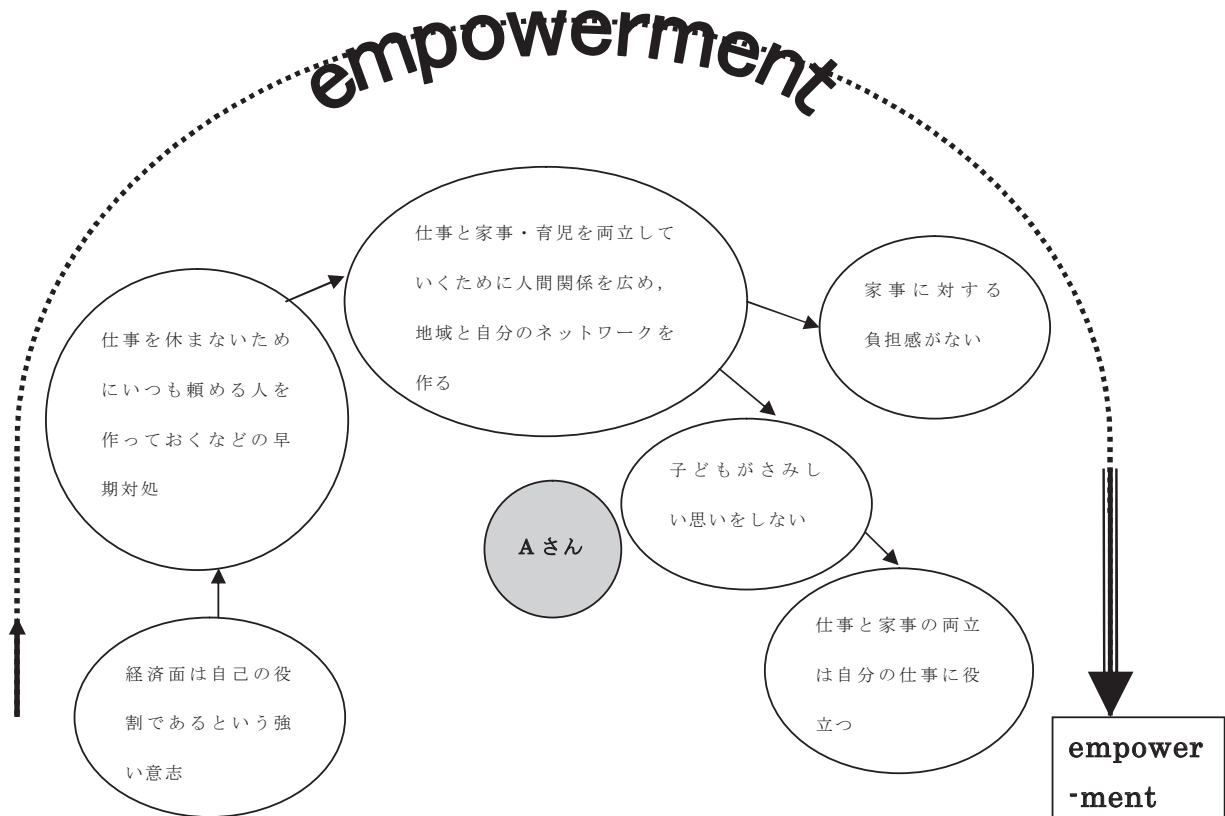


図2 Aさんのエンパワメント獲得プロセス

るために子どもに不憫な思いをさせたこともあり、子どもに不憫な思いをさせたくないという気持ち強いことが考えられ、職場への迷惑を回避するための苦い思い出と子どもに不憫な思いをさせないための調整と努力は関係している。子どもに不憫な思いをさせないための調整と努力には、仕事と家事・育児をしていくために家族・地域の協力が含まれ、自分のキャリアを生かした仕事の継続にも、家族・地域の協力が必要であることが考えられた。Bさんの構造図の特徴は、自分のキャリアを生かした仕事の継続を中心に広がりを見せていることである。仕事を継続するために、職場に迷惑をかけないようにするために子どもや自分がさまざまな我慢や対処をしてきている。さまざまな思いと葛藤を経験して仕事と育児を両立する上で必要だと感じていることは、託児所があれば

よいこと、職場に子どもと一緒にいくことができたら救われた、子育て支援は、個々が求めている支援が必要である。Bさんは、家事は女性の役割という伝統的な社会規範を受け入れた家庭生活のスタートから、働く女性に対する理解不足を感じ、体験するといった苦境にあった。その中で自己の価値観を変容させ適応し対処を重ねることでエンパワメントを獲得している。

3. Cさんの構造図にみるエンパワメント獲得のプロセス

Cさんのカテゴリーからのエンパワメント獲得プロセスの構造図を図4に示した。

Cさんの構造図は、職業選択からスタートしたところから広がりを見せている。職業継続という選択をしたことで食管理困難や、家族に及ぼす問

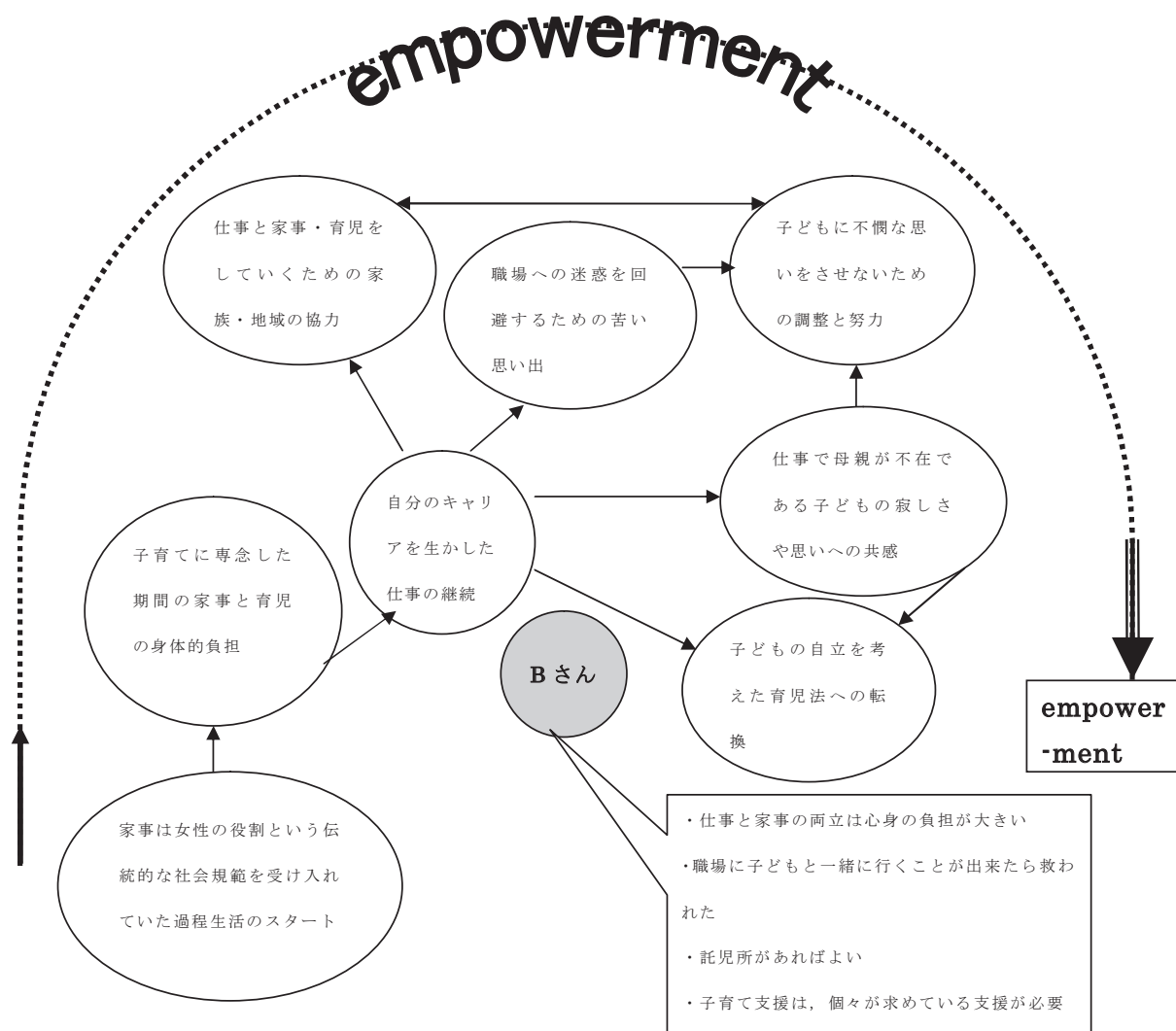


図3 Bさんのエンパワメント獲得プロセス

題への危機感につながっている。そのような中で、自分の能力に見合った職場選択をしている。自分の能力に見合った職場選択は、仕事と子育てのバランスが必要という考え方を見出す結果となっている。

環境としては、女性が働くことへの理解が少なく、社会支援や施策の不備といった状況があった。このことも仕事と子育てのバランスを自己がとっていく必要があるということを強調するものになっていることが考えられる。具体的な整備には保育園の充実と整備があがっている。Cさんは仕事を継続する上で母親のサポートがあり、さらに家族と地域の協力があつた。このことは、仕事と育児を両立していく上でなんらかの人的サポートの必要があることを表している。職場において

は、女性であることや子育て中であるという気兼ねがあり、仕事を継続していくためには、職場の理解とサポートが必要であると考えている。以上の結果、Cさんが考えることは、女性も柔軟に生きる必要性、乳幼児期は重要な時期なのでしっかり関わるのが大切、子どもの発達に伴った、必要な体験、子どもの心を育て、体感で学習する生きる力の涵養、子育てがすんだ者の役割は支える側になることである。これらの考えは、Cさんが仕事を継続してきたことで得られた知見である。Cさんの職業上から特にこれらのことを深めることができたと考えられるが、仕事というものがいろいろな人々の意見や知識を得る場となっており、このことがCさん自身を高め成熟させるものになっていることが考えられた。

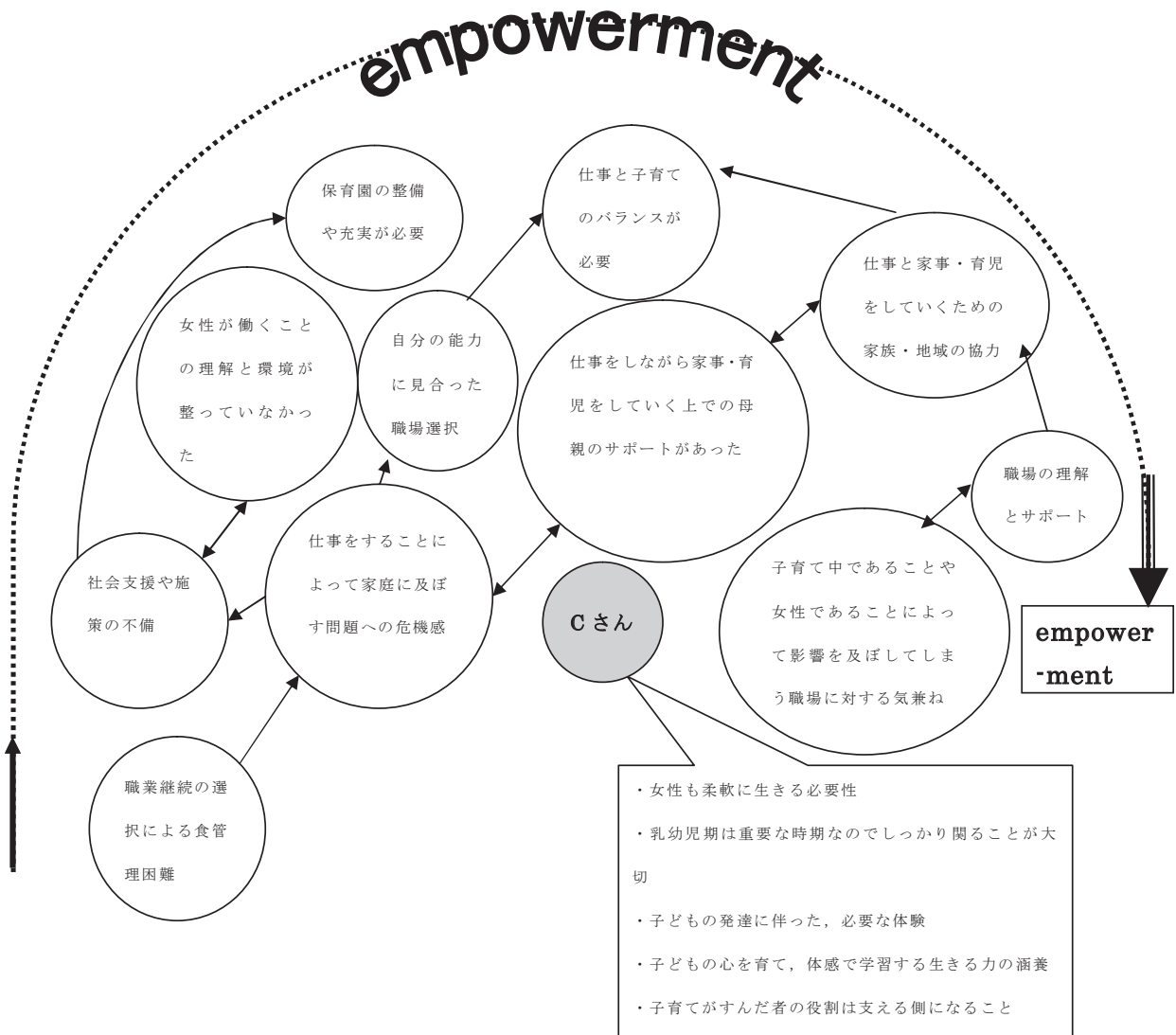


図4 Cさんのカテゴリーからの構造図

Cさんは、職業選択という意思決定からスタートし、職業を継続するために自己に見合った職場選択・転職をしている。Cさんの場合、職業を継続するということが中心となってそれに対応するための行動や体験によってエンパワーメントされてきたことが考えられる。Cさんの場合、仕事を継続するということが自体がパワーとなっており、その中で得た数々の価値観や考え方こそCさんがエンパワーメントした結果であると考えられた。

4. Dさんの構造図にみるエンパワーメント獲得のプロセス

Dさんのカテゴリからのエンパワーメント獲得プロセスの構造図を図5に示した。

Dさんは、仕事の熱意と経済の問題によって職業を選択している。仕事に対する考え方として、仕事に対する考え方は個々に目的が異なると考えており、仕事をすることに對する自己の考え方もち仕事をしている。仕事をしていく上で姑が母親役割を代行しており、孫との愛着形成ができて

いるといった状態にあり、仕事に専念できる環境にあった。姑の育児参加はDさんの精神的安定につながっている。

Dさんは、家族成員がそれぞれ個別の存在であるという考え方、親子が一定の距離を保った関係がよいという考え方であり、このことが、姑・夫・妻の明確な役割分担と良好な人間関係形成につながっていることが考えられた。このことは、Dさん自身が仕事に対する考え方、家族関係・人間関係に対する自己の考え方をしっかり持っていることが良好な家族関係の形成と仕事と育児の両立につながったものと考えられる。

そして、子育てがすんだ現在は母性が勝ってきており仕事や犬で子育ての代償をしているという状態にある。これまで自己の役割を全うしてきたことによる結果と考えられ、次なるDさんの新たな役割であることが考えられる。このことは、現在のDさんを満足させるものとなっており、これまで仕事と育児の両立で培ってきたものはDさんにとって現在の自己を確立したり、現在の役割を

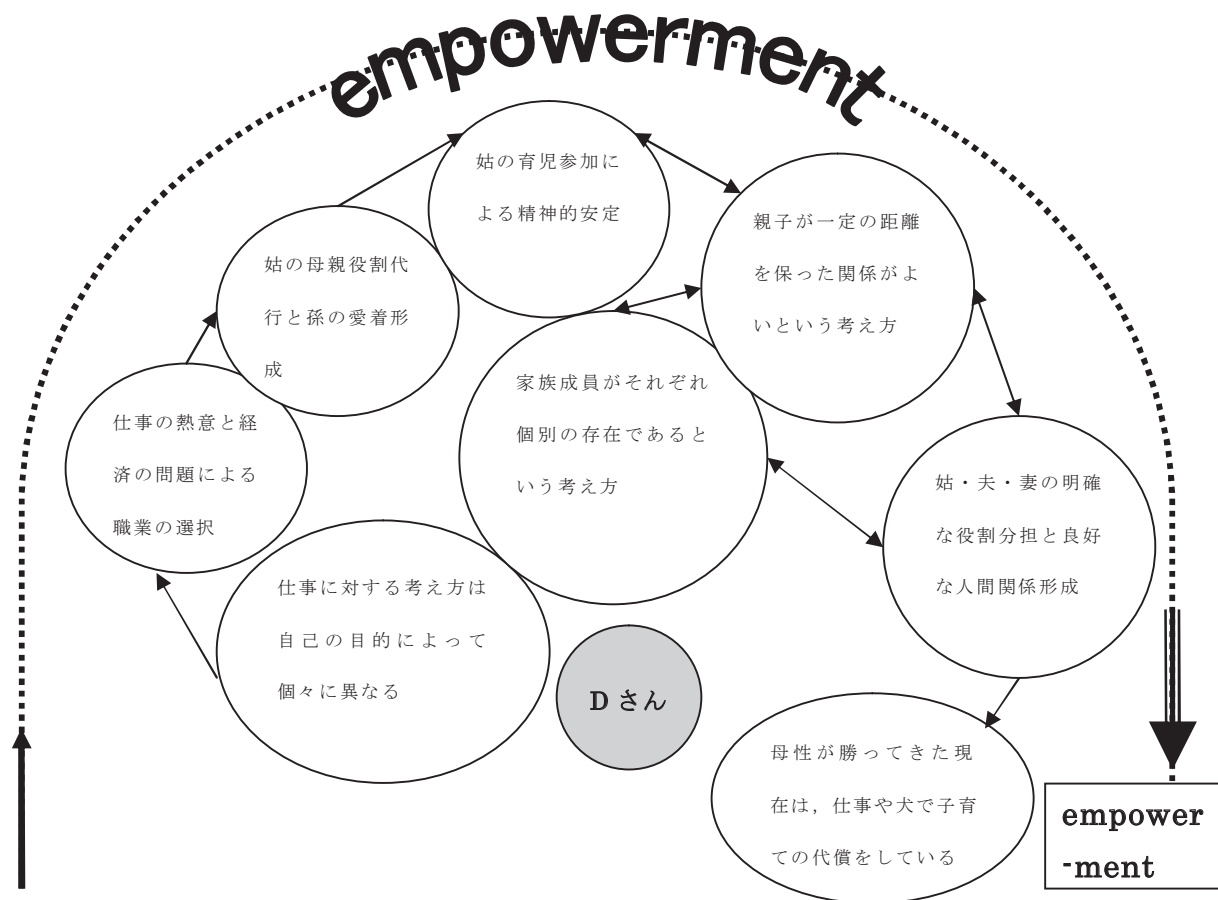


図5 Dさんのカテゴリからの構造図

導くために必要な体験であったと考えられた。

Dさんの構造図はすべてDさんの事象や考え方の中に納まっていることであり、外に対する支援や思いの表出がないことが特徴である。

Dさんは、姑の母親役割の代行によって自己の精神的安定をはかり、さらに家族成員は個別の存在であるという個人を尊重した考えをもつことで姑・夫との良い人間関係を形成することでエンパワメントしていることが考えられた。Dさんのエンパワメントは、Dさんの価値観と周囲の人間関係から発揮されたものであると考える。

5. Eさんの構造図に見るエンパワメント獲得のプロセス

Eさんのカテゴリからのエンパワメント獲得プロセスの構造図を図6に示した。

Eさんの場合、仕事をしていない自己が専門職者としての自己を目覚めさせ仕事をする意思決定をしている。一方、性別役割分業によって夫との間で苦悩することになる。性別役割分業による妻

の苦悩のほか、仕事をしていることで約束が守れなかったときの夫の憤怒がEさんを苦しめている。

これらのことから仕事と育児の両立の苦労は精神的なものであると感じている。仕事と育児の両立における負担や苦労は精神的なものが1番であると考えているが、その他の負担として、保育園と延長保育の利用による経済的負担をあげている。仕事と育児の両立における負担は多いがあらゆることを講じて仕事と育児の両立をしてきている。あらゆることをしてきた中で、家族・地域の協力、職場の理解が必要であると考えている。

以上のような体験を通して母親役割を獲得しており、それに伴うアイデンティティの確立を成している。Eさんの特徴は、仕事をすることを意思決定したことで性別役割分業の苦悩から始まっていること。そして、その苦悩の中仕事と育児を両立し、自己の母親としてのアイデンティティの確立を成している点である。Eさんは、性別役割分業に始まった苦悩を乗り越えていくこと、あらゆることを講じて仕事と育児を両立するという経験

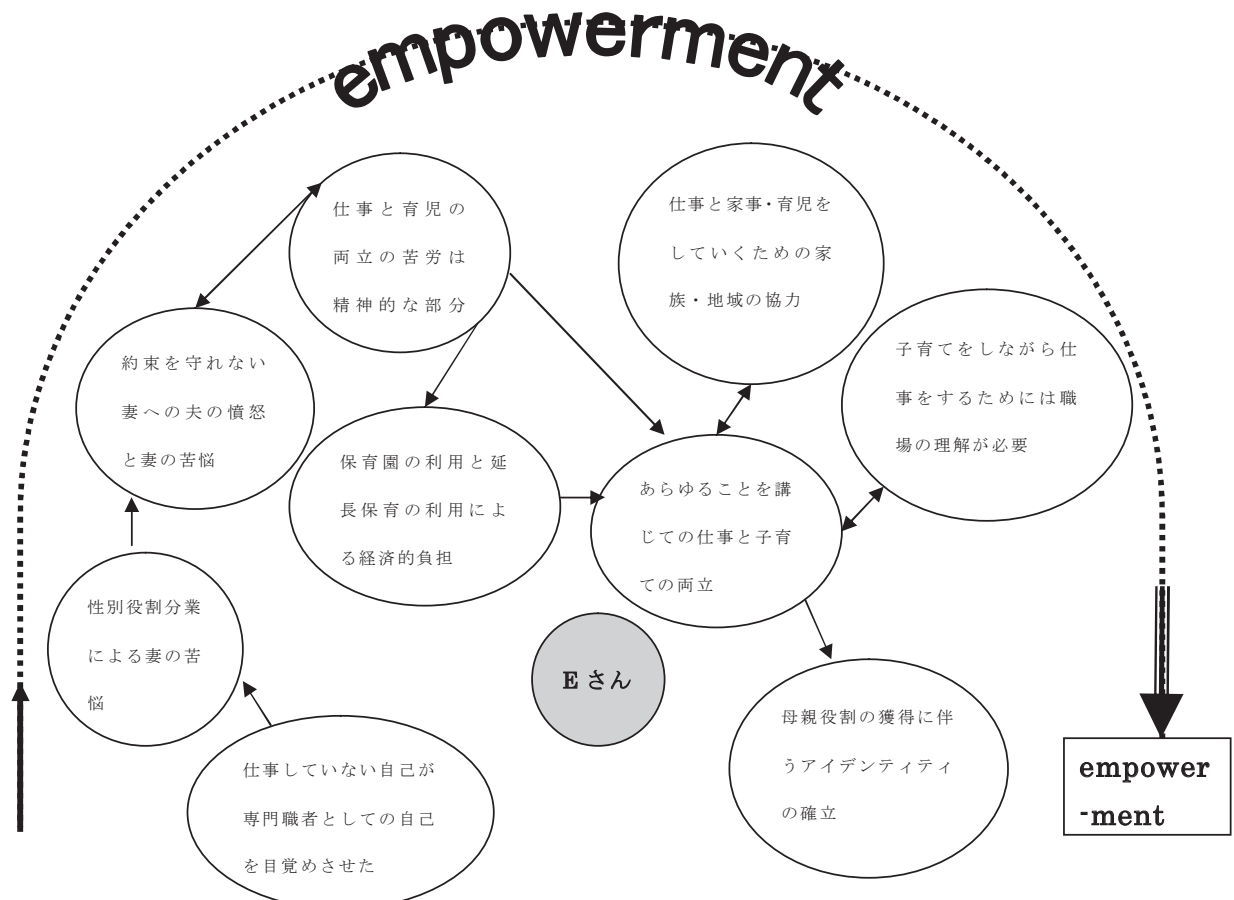


図6 Eさんのカテゴリからの構造図

の中でエンパワメントを獲得している。母親役割の獲得はエンパワメントの結果ともいえ、肯定的な感情につながっており、さらにエンパワメントを増強させていくものとなることが考えられた。

6. 抽出された被験者5名のカテゴリーの全体像にみるエンパワメント獲得プロセス

被験者5名から抽出されたカテゴリー化(表1)をまとめると、女性が働くようにシステム化されていなかった時代背景、自分のキャリア（能力）に見合った職業選択の意思決定、職業継続に伴う家族に及ぼす影響とその関係調整、仕事と家事・育児をしていくための家族・地域の協力、子育て中の母親に対する職場の理解とサポート、仕事と家事の両立困難、心身の負担、自己の存在価値の目覚めの7項目に集約された。

この7項目は、仕事と育児を両立する母親がエンパワメントを獲得していくプロセスを表していることが考えられ、仕事と育児を両立する母親のエンパワメント獲得プロセスとして図示した(図7)。上記、図7の中の螺旋はエンパワメントを表しており、ゴールに向かう間に大きくなることを示している。

自分のキャリア（能力）に見合った職業選択の意思決定は、母親自身の強い意思決定で、ここからスタートとなっており自己の生き方への誓いとなっている。この意思決定はエンパワメントの源になっていくことが考えられる。

女性が働くようにシステム化されていなかった時代背景は、仕事と育児を両立する母親が苦悩してきた問題の所在を表している。仕事と家事の両立困難と心身の負担は、負担の所在を明らかにしており、時に仕事と育児の両立を困難にする問題を表している。この2項目を乗り越えるためには、職業継続に伴う家族に及ぼす影響とその関係調整、仕事と家事・育児をしていくための家族・地域の協力、子育て中の母親に対する職場の理解とサポートの3項目が必要であることを意味し、この3項目が仕事と育児を両立していくうえでの鍵となり母親のエンパワメントの獲得につながっていく。例えば、女性が働くようにシステム化されていなかった時代背景として育児休暇不十分な場合をとりあげると、休暇不十分なことによる母親の不在に対し、家族が見てくれるといったことや、どうしても休む必要があるときは、職場の人

に理解とサポートを得ることができなければ休むことはできないということである。

そして、最後のゴールにある自己の存在価値の目覚めは、仕事と育児を両立していくという強い意思決定のもと、さまざまな問題を乗り越えながら仕事と育児を両立する中で母親が目指すところを示している。

自己の存在価値の目覚めは、エンパワメントを発揮する基軸となるものであることが考えられ、仕事と育児を両立していく中でエンパワメントしながら成熟した結果得られるものである。特に、女性が働くことへの理解と社会保障制度が十分でなかった時代においては、女性に対する特別視が存在しており、女性は家庭を守り子どもを育てるといった性別分業論が色濃い時代であった。しかし、昭和21年(1946年)にGHQと日本国政府との間との協議によって作られた日本国憲法の第二十四条は両性の平等を規定したものである。女性の権利は、戦後から憲法に定められていたにも関わらず軽視されてきた時代背景があることも忘れてはならない。現在では、女性の地位も向上しており権利を主張することができるようになっていると考えられる。

以上の仕事と育児を両立する母親のエンパワメント獲得プロセスを構成する項目は、八尾らが個人のエンパワメント基本モデル⁵⁾で示しているように、セルフ・エンパワメントの土台となる主体性と同等な内容となっている。このことは仕事と育児を両立する母親には主体性があり、主体性がなければ成しえないとも考えられる。この主体性は、自分のキャリア（能力）に見合った職業選択の意思決定における資質ともなっている。ゴールとなる自己の存在価値の目覚めは、中谷のいう内発的発展のことである。中谷は、『地域子育て支援と母親のエンパワメント』⁶⁾の中で、地域の子育て支援には、内発的な発展が必要であると警鐘しており、その場だけの子育て支援の場は不要で、母親自身が自分を認めさらには周囲の人と支え高め合うことができる場によって、母親がエンパワメントを獲得できるプロセスをたどることにつながると述べている。仕事と育児を両立していくためには、子育て支援も重要事項となるが、母親自身の成熟が最も大きな鍵と考える。

表1 5名から抽出されたカテゴリーの全体

A	B	C	D	E	まとめ
	家事は女性の役割という伝統的な社会規範を受け入れていた家庭生活のスタート	女性が働くことへの理解と環境が整っていなかった			女性が働くようにシステム化されていなかった時代背景
	子育てに専念した期間の家事と育児の身体的負担	社会支援や施策の不備			
経済面は自己の役割であるという強い意思	自分のキャリアを生かした仕事の継続	自分の能力に見合った職場選択	仕事に対する考え方は、自己の目的によって個々に異なる	仕事をしていない自己が専門職者としての自己を自覚めさせた	自分のキャリア（能力）に見合った職業選択の意思決定
仕事と育児の両立は自分の仕事に役立つ		仕事と子育てのバランスが大切	仕事の熱意と経済の問題による職業の選択		
		女性も柔軟に生きる必要性			
子どもがさみしい思いをしない	仕事で母親が不在である子どもの寂しさや思いへの共感	仕事をすることによって家庭に及ぼす問題への危機感	家族成員がそれぞれ個別の存在であるという考え方	性別役割分業による妻の苦悩	職業継続に伴う家族に及ぼす影響とその関係調整
	子どもに不憫な思いをさせないための調整と努力	乳幼児期は重要な時期なのでしっかり関わることが大切	親子が一定の距離を保った関係がよいという考え方	約束を守れない妻への夫の憤怒と妻の苦悩	
	子どもの自立を考えた育児法への転換	子どもの発達に伴った、必要な体験	姑の母親役割代行と孫との愛着形成	仕事と育児の両立の苦労は精神的な部分である	
		子どもの心を育て、体感で学習する生きる力の涵養	姑の育児参加による精神的安定		
仕事と家事・育児を両立していくために人間関係を広め、地域と自分のネットワークを作る	子育て支援は個々が求めている支援が必要	仕事と家事・育児を両立していくための家族・地域の協力	姑・夫・妻の明確な役割分担と良好な人間関係形成	仕事と家事・育児を両立していくための家族・地域の協力	仕事と家事・育児を両立していくための家族・地域の協力
	仕事と家事・育児を両立していくための家族・地域の協力	仕事をしながら家事・育児をしていく上での母親のサポートがあった		あらゆることを講じての仕事と子育ての両立	
	託児所があればよい	保育園の整備や充実が必要		保育園の利用と延長保育の利用による経済的負担	
仕事を休まないためにいつも頼める人を作っておくなどの早期対処	職場への迷惑を回避するための苦い思い出	子育て中であることや女性であることによって影響を及ぼしてしまう職場に対する気兼ね		子育てをしながら仕事をするためには職場の理解が必要	子育て中の母親に対する職場の理解とサポート
	職場に子どもと一緒に働く事ができたら救われた	職場の理解とサポート			
家事に対する負担感がない	仕事と家事の両立は心身の負担が多い	職業継続の選択による食管理の困難			仕事と家事の両立困難と心身の負担
			母性が勝ってきた現在は、仕事や犬で子育ての代償をしている	母親役割の獲得に伴うアイデンティティの確立	自己の存在価値の自覚

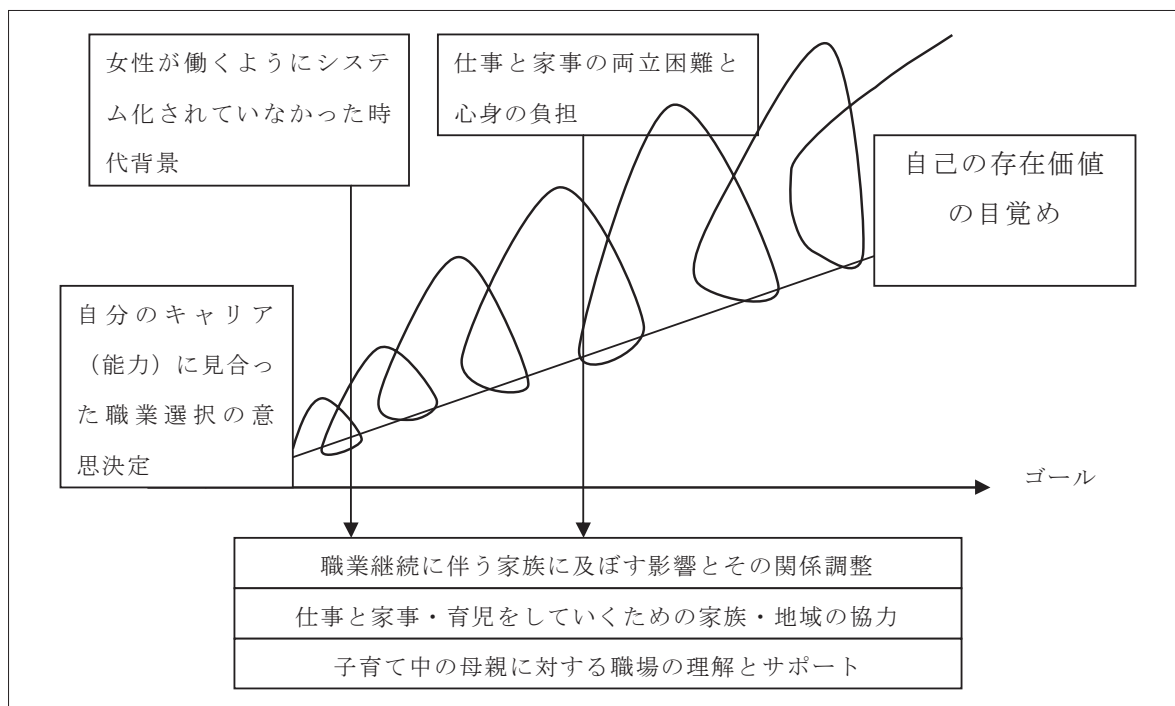


図7 仕事と育児を両立する母親のエンパワメント獲得プロセス

■ 結論

仕事と育児を両立する母親のエンパワメント獲得プロセスで明らかになったことは以下のとおりである。

1. 自分のキャリア（能力）に見合った職業選択の意思決定は、主体性のある意思決定であり、仕事と育児を両立していくために必要である。
2. 仕事と育児を両立していく母親は、心身の負担や時代背景などの苦悩を経験しながらエンパワメントを獲得していく。
3. 仕事と育児を両立していくために、職業継続に伴う家族に及ぼす影響とその関係調整能力が必要となる。
4. 仕事と家事・育児をしていくためには、家族・地域の協力、子育て中の母親に対する職場の理解とサポートが必要である。
5. 自己の存在価値の目覚めは、さまざまな問題を乗り越えながら仕事と育児を両立する中で母親が目指すところであり、エンパワメントにつながる。
6. 自己の存在価値の目覚めは、エンパワメントを発揮する基軸であると考えられ、仕事と育児を両立していく中でエンパワメント

しながら、母親自身が成熟した結果得られるものである。

■ おわりに

本研究は仕事と育児を両立する母親のエンパワメントに関する研究であり、仕事と育児を両立してきた母親がエンパワメントをどのように獲得してきたのか、そしてそのエンパワメントにはどのような能力が必要なのかについて検証することになった。そのためにすでに子育てを終えた看護職に関係のある職種で仕事を継続してきた被験者5名について仕事と育児を両立してきたこれまでについてインタビューをした。その結果、被験者5名個々の能力に特性がある中で共通するものが抽出された。皆、苦境にあったこと、その苦境の中でも職業継続という強い意思決定を持って行動していたこと。行動には数々のマイナスエネルギーとなるつらい体験を重ねていることが反映しており、この苦境が力になっていることである。そして目指すところは自己の存在価値の目覚めでありそのために仕事と育児を両立しながら周囲の人々との関係の中で自我を確立させていること。自己の存在価値を目指すためには他者との関係調整の中で自我を確立させることが不可欠であ

ることから、周囲の人々とのさまざまな人間関係の中で調整を重ねてきたことが考えられた。母親たちは、仕事と育児を両立するという目標に向かって、日々周囲の人々と関係形成しながら切磋琢磨し問題に対処していく中でエンパワーメントを獲得していることが明らかになった。

しかしながら、本研究は被験者が全て看護職に関係のある専門職者であったことからすべての仕事と育児を両立する母親に当てはまるとは限らない。よって引き続き他の産業界における現状把握も必要である。本研究においては個人のエンパワーメントに視点をあてた分析であったため、今

後は組織のエンパワーメントの視点に立った分析も行い、社会の変革につながるものにしていく必要がある。また、母親のエンパワーメントを支えたと考えられる父親に関する研究も必要である。

以上のことから、他の産業界における現状把握によって仕事と育児を両立する母親のエンパワーメントモデルの構成要素の妥当性の検討と、組織のエンパワーメントの視点にたった分析、母親のエンパワーメントを支持する社会制度のあり方について検討すること、父親の研究を今後の課題とする。

注

- 1) ギブソン (Gibson, C. H.) ; Associate Professor, Faculty of Nursing, University of New Brunswick. 臨床看護領域においてエンパワーメントの質的な調査研究を行っている。『入院中の慢性神経疾患児を抱える母親のエンパワーする過程』についての詳細な質的研究がある。
Gibson C H. The process of empowerment in mothers of chronically ill children, Journal of Advanced Nursing, 21: pp1201-1210, 1995.
- 2) ギブソン (Gibson, C. H). ; A concept analysis of empowerment, journal of Advanced Nursing, 16, pp354-361, 1991.
- 3) 財団法人 厚生統計協会；厚生指標増刊 国民衛生の動向 Vol. 56, No.9, p97, 2009.
- 4) 厚生労働省；平成20年版働く女性の実情, 2009. <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/03/h0326-1.html>.2010.3.
- 5) 八尾芳樹・角本ナナ子；人間力を高める！セルフ・エンパワーメント, 東京図書出版, p12, 2007.
- 6) 中谷奈津子；地域子育て支援と母親のエンパワーメント 内発的発展の可能性, 大学教育出版, pp22-25, 2008.

英文抄録

A sense of empowerment among mothers who raise children while working (Part 1)
— An examination of the process to achieve a sense of empowerment among mothers who managed to balance work and childcare —

Hiroshima Bunka Gakuen University, School of Nursing
Fumiko Nakai, Hidemi Sasaki, Kyoko Yamauchi

We conducted an interview survey involving mothers who managed to balance work and childcare, with the aim to identify skills required and developed by them to juggle jobs and childcare, as well as the process to achieve a sense of empowerment. The subjects were 5 mothers who raised their children (now-adult children) while working. A qualitative approach was employed for this study. The interview results were compared and categorized across the subjects. As a result, the following 7 categories were extracted: “a historical background where systems were underdeveloped to allow women to take on jobs”, “decision-making and career choices in terms of their own capabilities and interests”, “effects of work continuation on families and adjustment in family relationships”, “cooperation with families and communities to perform multiple tasks at home and work (e.g., household chores, childcare, and jobs)”, “understanding and support at workplaces for mothers engaging in childcare”, “difficulties with work-childcare balance and psychological/physical burden associated with it”, and “an awareness of self-worth and meaning”. Based on the 7 categories, we examined how these mothers attained a sense of empowerment as they dealt with paid work and child-raising practices at the same time. They moved forward with their goals of striking a balance between work and childcare. They came to feel empowered by making continuous efforts to establish relationships with people around them, develop competencies, and deal with problems.

Key words: jobs, childcare, mothers, empowerment